

元北海道廳勅任技師

伊藤長右衛門氏

兼て軽い動脈硬化症を傳へられてゐた伊藤長右衛門氏は、8月30日札幌北7條の自邸に於て急逝された、享年65歳である。

9月2日札幌市に於て告別式を舉行され、東京其他各地から官民多數の參會があり、非常な盛儀であつた。

伊藤長右衛門氏は北海道には忘るべからざる功勞者である。伊藤氏は福井縣の人で、福井中學時代は常に首席を占め、一高を経て東京帝大土木科を明治35年に出で、直に北海道廳土木部に入り、故廣井勇博士の下に小樽築港工事に従事した。而して俊嚴神の如き廣井博士の指導により、土木技術者として偉大な訓練を経た。

明治37年日露開戦となるや、陸軍士官として應召各地に轉戦して武功を立て、功五級金鵄勳章を賜つた如きも、當時の伊藤氏の意氣を察するに餘ある。

其後北海道に於ては伊藤氏の技術的手腕益々認められて、明治43年歐洲に出張を命ぜられ、各國の港灣施設を視察調査して歸朝するや、北海道拓殖計劃に應ずる、各築港工事に寄與したが、特に留萌港の如き世界的に強大なる波力に對して、防波堤を完成した事は、伊藤氏の強き自信と技能の優秀さに依るものである。其他北海道の港灣にして伊藤氏の技術的手腕に待たないものはない位である。

伊藤氏が先輩として師として仰いだ廣井博

士は殆んど終生の師弟關係であつた。博士の死後率先して廣井博士記念事業會を發起し、遂に會の事業を大成して、廣井博士の功業を不滅に傳へられたのである。

伊藤氏は昭和10年11月、正四位勳二等、高等官一等にして官を辭し、東京に別宅を構へ一介の老書生として簡素な生活を送り、然も其間猶も日本製鐵會社其他の顧問技師として

の日課もあつた。

晩年の伊藤氏は酒を愛し、酒に強かつた。而して碁を愛し、碁友が廣かつた、其他に興味として謡曲に親んだ。後進知友の爲に勞を執るや實に親切、名利を意に介せず天空快潤の野人ぶりは氏の徳望であつた。

土木學會等の工事見學會に、和服姿の伊藤氏の溫容も見られなくなつた。伊藤氏が碁を愛する會として催されてゐた欄柯會は今後何處に行くだらうか。

因に伊藤長右衛門氏には三男四女あり、長男、長明氏は北海道帝大醫學部を出で助手として勤務中、二男、長次氏は東大土木科を出で、故井上範博士(伊藤氏同窓の親友)の養嗣子となり、東京電燈會社に勤務中である。尙伊藤氏は弟妹も多く、次弟、長氏は豫備海軍大佐にして石川島造船所に勤務し、長二氏は醫學博士にして聖母病院の外科部長である。



故伊藤長右衛門氏